

鈴鹿家記

延元
大永四

			和書門
	一五六三		
	二四		
七			
冊	架	函	號

182

庫	文	閣	内
一五六三			和書
二四			
一			
架	冊	號	類

記録

内閣文庫	
番號	和 15663
冊數	2 (1)
函號	162 182



定康記延元元年二月
大藏記心永六年六月

永享二年八月

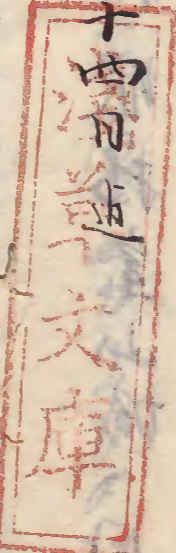
定音記心仁元年十二月

定宗記大永四年二月



延元

元丙子元年二月



定康

一朔日丙子晴天齊場所江神供御本所本幣祝祝

調神樂諸社江神供不糸子上刻大角照仲冬籠



源修行

一船是今宮神主初テ御本所江御禮ニ糸江次大角山城

一兩人江米廣奉幣ノリニ糸山城ヨリ上賀茂松ノ下若木

權祝マテ今宮ノ神主奉幣ノ義記リニ本ノ賀茂ヨリ

延元ノヨリ...

一 江列多賀ノ社僧宗元コウタスキ 神眼請之上ニ次
定康奉幣納鳥目百北請取

一 酉ノ上刻本所ヨリヨヒニ井リ志水谷同乃イタシ系燃神

ヨヒニ本所ヨリ久七を大角山城ヨリ本所山表江

以書明後三日ヨリ從 禁申護廣江作有々候ヨリ

神復何哉イタスへキ申作ワタサレ但ニ祝三日志水

谷ヨリ祢宜神人江アイワル

一 二日辛也晴天宗元系神眼持系山城へ日乃イタシ

系酒ナル多イレ所本所ヨリニ下

一 三日壬寅晴天卯ノ申刻燃神十八神道子ノ上刻定康

宗源酉ノ中刻コウニ祝燃神定康カウツメ祢宜八人神

人八人神樂亥ノ上刻サカル

一 四日癸卯雨天卯ノ申刻十八神道定康午ノ上刻山城ヨ

宗源未ノ上刻宗元宗源申ノ上刻神務院十八神道

申ノ下刻知福院十八神道酉ノ上刻コウマ定康向結

神務院多賀宗元神人祢宜十六人コウマニテ御本所ヨリ

由モクセリト

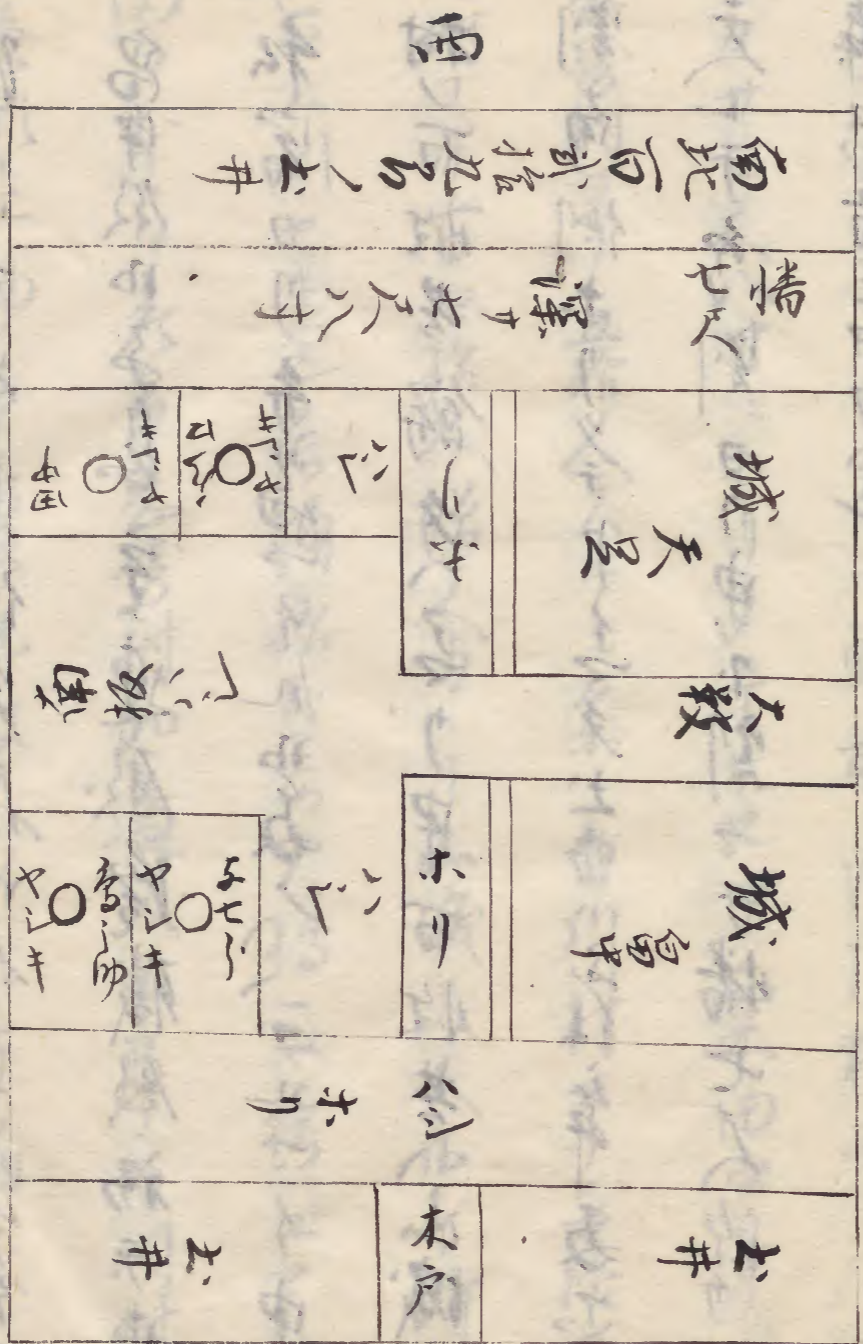
一 五日甲辰晴天世ノ上刻宗元十八神道世ノ下刻ヨリ

山城宗源弁ノ上割コウマ向浩熙仲定康キヨハライ
天津定康國津青仁山城守辰ノ上割ニサカレ朝飯
之聖護院天足隆宗殿畠中重則殿ヨリ使系
聖護院村惣堀明日明後日仕舞申度、高村ノ
百姓一五日ヤトイ申度キ申事人則五人ヨリノ使
御在所江申上ル今日ヨリ百姓不殘堀ヲホリニノ系由
申付申人、今日ヨリ百姓共ニ進申事俄ニ定使古
之系中身フレサセニ跡聖護院、系祝祢宜神人侍百
世家ヤクニハスヘキ申山城五人申付ル人教七十式人

なり山城五人系由所ヨリ七十式人米武律マイト己申
割ヨリ南表向ノ堀横七尺ニヲカサ七尺八寸長廿三拾九間己
割面ノ割マテホリ申天足六右丈殿畠中朝八殿ヨリ吉田
聖護院百姓江ムキワリ大石橋ニハ石スモニテ鑿取御本
所ハ尺舞六右丈朝八江四方堀ノハナカサル跡別隆宗聖別
膳間教皇ヨリカケラル、由本所畠山尺堀長ノ三拾九間ト
ウサマツヲ堀を引ルヒ口ケナサレニ堀間ニハ中ヨリ別私百
姓ノ中ホラセ進上ニテ申付ル只今ハ人々ノ屋敷ヨキ祝ニ
ツケ末々ニ成リテハヤシキ廣クホシキ物ニテあり其時ニ

イタツテヤシキセハキト後悔ニキアルマレク而表東に在る
 小南百部指九百、定于小南夕飯在田ヨリ七指或人食糸
 申ノ上刻何モ夕へサセ西ノ刻マテホリ堀中山城五人聖
 護院ヨリカスル明日ハ卯ノ刻聖護院へ二糸也スレサセ申
 小本所ヨリ聖護院村百姓共ト喧嘩サセ又ヤウニ夕ス
 へ申ノ中明日ハ天足留申、北方ヨリモ夕セ二糸申ヨリ

聖護院村百姓共ト喧嘩サセ又ヤウニ夕ス
 へ申ノ中明日ハ天足留申、北方ヨリモ夕セ二糸申ヨリ



東に在る指九百ノ井

一六日乙巳晴天山城守聖護院、百姓七十或人メリツレマイラ、
 新飯原ノ上刻ニ夕へ山城トカワル今日拾壹日ノホリ仕舞

ア中本下ヨリ溝口由使。系カレコマリ中中百姓トモ下後ス
乙下割。中本下ヨリムキテ餅六石大樽武倉考也于鱈
隆宗重別。照仲定康口人、并為社下天足殿子息
留中殿子息。主連殿。隆職殿。初テ由目。カレ山城
私宥ヨリ并為マイル由人、フルマイ申由酒おス女不
村ノ百姓考餅夕へマリ申百姓考、山城トラサル、申下
割南側ホリタテ中中夕お井ハ在在年五石村百姓合百姓
之レテ申割ヨリ申下割マテ備七尺八寸深井七尺八寸あり中
隣江者ヒヤウハニ

一七日丙午少雨天卯中割。聖護院村西ノ方南小百亦九石ノ
ツカサ七尺八寸ニホリタテサセ申粟田口ヨリ亦五人スケニ系
長湯村ヨリ五拾人スケニ系、白川村ヨリ口拾五人田中ヨリ廿人
田村ヨリ百口拾人拾人カ、り山城五人由下所、手紙ニテP
己上列セキハ、右揃松武倉大樽云云ニシテクキ于鱈粟
田口本下長湯村加邊又之由白川村忠二丁田中村
廣瀬仁助而護院五人ノ存并為系西カワノホリ深サ
七尺八寸、百亦九石并別ホリタテ申亦五拾間ノツカサホリ
申人未ノ上別。聖護院五人ヨリ亦百亦拾武人夕飯おん

計ナク、ア工物ヤキ地者地大橋ニ居仕也。普請百ノ下刻仕
舞、ア地、本、不、余、聖護院ノ根子、ア工物諸中、天足留中、
口、不、ヨリ、牧、跡、又、多、山、火、ノ、山、禮、ニ、余、今日、多、人、教、山、振、舞、
之、子、何、子、速、ホリ、ホ、来、月、如、夜、中、ノ、山、使、

一 八日丁未晴天南部春日ノ社家神忌掃、ア山禮ニ上ルヲキ十
山相傳ウクル青洞式拾七、九次山城

一 聖護院ノ兩人山禮ニ御糸吸物ホク方、ノ、山、中、山、帰

一 九日戊申晴天日吉神之樹、ア九京年、野ノ御、糸

一 十昨末、廣、ニ、山、九、次、定、康、大、角、山、城、五、人、カ、フ、リ、モ、ロ、コ、ナ

クシツ、年、五、クル、

一 聖護院ヨリ明日御本所、ア、成、有、五、人、モ、マ、糸、中、申、奉、
照、伸、上、モ、申、渡、ス

一 九人、山、根、御、成、山、使、山、本、所、西、栗、田、口、テ、カ、ケ、所、ハ、マ、イ、ラ、ル、儀、

ヨ、ヒ、ニ、山、本、所、山、根、御、成、山、使、山、本、所、西、栗、田、口、テ、カ、ケ、所、ハ、マ、イ、ラ、ル、儀、

ム、イ、テ、山、本、所、山、根、御、成、山、使、山、本、所、西、栗、田、口、テ、カ、ケ、所、ハ、マ、イ、ラ、ル、儀、

セ、キ、テ、女、一、人、ナ、ラ、ス、又、人、三、人、テ、カ、ケ、持、テ、モ、ソ、レ、テ、ハ、カ、ツ、

ク、カ、ト、申、サ、ル、近、衛、様、御、成、堀、重、門、マ、テ、山、本、所、山、根、御、成、山、使、

祝、ヒ、キ、ス、左、大、后、様、モ、御、テ、カ、ケ、式、人、メ、シ、ツ、山、根、御、成、山、使、

山城ニカタレハカレハ代々所家ソレト申サル其子細ハタイシヨク

クワンカラツリカヨイト申サル、兩人ワライ申キト下割

御膳也ス由計 ツマミ人根ミ 所食 仁物 アカノイ ナス ウツト

ヤキ物 生ノ 由引物 イセエニ 由テカケ危膳故日由ヤウハシ

由酒也ス由肴イロク山城兩人召カサル、進友織ア由使

由前也ル由由武人ニ危送様、アカ子ノフクサニ派浅文

ツミ武人、テカケヤラル、派浅拾浅天足殿留申殿ニ

俄ニカリニ是九文マイリ口文ツミ様ノ枝、ツケテ左大臣殿

由前、由由持テ由由五人ノテカケニ成ラト申上ラレ

御所様由按姫由由私ニ派浅ノ義山城ニシニツマ波ヨレ

由由山城フニ申、下割還所

一十日乙酉晴天近湯根ヨリ昨日ノ由後由使之由之義

山城退身シ礼、系由由梅ヨリ多月十是有飲仕テ帰ル

由由申上レ己ノ上列天足澄宗へ五人サキニ由由由

己、下列、至護院ニ由由アイサツ難勢留申守別アゼキ

アカ子キ又一是多月百是澄宗へ系ヒルウトシ吸由鯛酒之ハ

澄宗ヲサム所本所高比至護院殿ハ飲ニハイツコヨリ

ハ飲由ニ成中、ヤ、定別其由ハシカト不存ハ澄宗是程

寛元丙午四年十二月八日、初テ天足隆久居任仕人

宝治戊申二年三月十日、年百六十二テア、其世將隆次

ト申、マテハ此左所名、高申ト申、海山ノ御左任文永

己六年三月、聖護院振上知、年、申私親也、禮テ

由、九十九、三月十日、是、天お果申、聖護院ト由、改メ

ア、弘安、元年、聖護院トア、夕、タル、申新替

モ、源、寛元丙午、年隆久初、高比、居任仕、延元丙子

二月、隆宗、聖護院、其カマ、エ、ホリ仕、天足家、同、其、家、

テ、リ、ト申サル、高申、其カマ、エ、ホリ、ハ、家、久記、ハ、セ

ヲ、カル、ヘキ、由、由、申、ナサル、重剛、家、久記、元弘、辛未、

兄直臣、南都、興福寺、ニ、テ、カ、イ、ノ、表、由、申、云、仕、宇佐、貞

ヲ、宇佐、ト申、コト、ハ、ハ、キ、ライ、ニ、延、延、辛未、八月十六日、實秀、

宇佐、義直、臣、シ、名、テ、白、留、申、ト、名、字、名、宗、マ、ト、作、出、サ、レ、本、津

川、ノ、渡、ニ、テ、由、存、云、興福寺、ニ、テ、昨日、ハ、夕、ラ、キ、由、カ、レ、入、其、方、

名、ヲ、由、改、メ、延、レ、ヨリ、留、申、ニ、テ、延、下、兄、直、臣、正、方、元、正

七月二日、宇、武、メ、ニ、テ、お、果、申、留、申、ヒ、リ、年、号、月、日、旧、記、

名、申、私、代、ニ、惣、堀、侍、コト、ケ、極、ニ、家、ノ、記、ニ、未、々、ヒ、マ、コ、ワ、レ、ハ、イ

ツ、ル、子、ノ、未、々、マ、テ、シ、レ、キ、ス、極、ニ、ケ、極、ニ、申、申、ト、延、元、丙、子、ニ

月七日ト家ノ記ニ事ノセラレト兼瀬山内ニカケラレ勝手ヨリ

物詔初カ子膳シキス隆宗山内膳モ子テ定別ヨレナキ

ナカモノカタリニ市膳カツイテ山ト申サレタ兼仲モ定

康モ雜惣ノ市坊モ定別市相伴仕ルトクノ膳ヲ

カサレシヘク食汁 スマシ大根 ナマス 鮎 ヤキ物 鯛 仁物

カイヤキ引物 ウツラ 香物市酒 サカナ 吸物 ハマクリ

冷物 ク子宗 山酒隆宗ヲサメ元由菓サクラ餅由菓未下刻

ヨリ双六百一初ハ白方雜惣隆宗山城黒方定別市本由

定康白方勝山本由ト及為山内兼瀬山内カケニテ

ハヤクモ来仕定別五人兼在由定別申サレムコトク我々

家ノ記ニ據ノ兼在ノセマ由隆宗市物詔山本由兼瀬隆

宗重別五人由申人神代ヨリ初テ為比ニ居住シテ末ハ

シヤウスルハ為比ニ初ノクワニリ隆久寛元四年十二月

ハ示ニ初テ居候シテ寶治二年ニ百五十五三月十五日死去為

地元祖ト井イ百五十五ノ長命ト井イ別以安聖護院殿

然此権現為比由勅請権現モ孝昭天皇庚寅亦乙年

三月十五日ニ熊野山由況ニ種元祖天足權守隆久モ百

五又ニテ三月十五日ハ地ニシサム今ヨリハ九月九日ノ神夏三月

十日二夕廿八申由ヶ振例一度有夏三三立別隆宗

左振の序三月十五日一仕申サレ、巾吸物シタチ口奠コト巾酒

限ニテ申上別巾所巾

一十日庚戌晴天九條横ヨリ奉幣巾テ二河津迄

交申テ少路河使系 齋場所懐蓑糸籠屋祢宜神

人中持除サセ申中割ヨリ山城五人齋場所お詣

午別齋場所三関白楳河成樋口殿河津

奉幣次第

先一揖次着座一揖次二拜次取幣二拜

一天太平

祝文曰

社頭康榮

常般石堅般石 守幸賜 陪

以拜次三種太板十二次拍手大小次二拜

次坐揖次立坐一揖次退下

幣

関白様

定康上

一十二齋場所御前関白様河奉幣

幣

兼概

神人四人

神樂

御子五人

一 聖護院山城の使系隆宗内茂がヨソハク足袋を奉
葛深帯を飾留申す別内茂が子七、右同左百一
マケ振舞由五人サレツ次男ニテ後ヨシ由申す

一 十二日辛亥雨天ムキ食由本取、モ夕也上ルワラチマキを
天足備中殿留申丹後殿曰新六殿天足権親殿親子
四人今日雨天由サヒシク由存、ハコ成、由女由使系
追分系由申事、年ノ割、四人ノ存、由留申丹後百一
マケ振舞由座ト申サレハ大角城在百一ノカケハ人マ
振舞ノキト尸丹存、右様ノカケナラハ双六ノウチヤウカ
二下申サレハ次ハ定康ニメサレハ今月ハキトサキエヨリテヒマ入申
由入ト申事、十四日、定ノ由合才、雜勢殿、モ便宜申テ夕モ
隆宗丹列、ハナタハイツソト申サルレハラレハ事三月十日
廿一日カニ仕申安也申サレ照仲隆宗ソレハヤウテモヨハイ
テモ系ト申事、ソノヤウナラシケテイカウトハフシツケナト由ワ
ライ、由中山城大麓口ヲソロエテ三月ハ丹列伊勢藩ノ由人ニテ
由存、伊勢藩トカ子テラ仕由、由由存、由月ヨリイセカウニ
由マシリ、由由中、由山城私左振ナラハ十五日神夏改マリ
由存、由伊タサレ、由申セハ十五日、定リ、聖護院、九月九日、神

夏三月十日、初テ行ナハル事、畠中重別、元祖兼概、隆

宗室別、曰、於其地ニ神夏改テ善身ノ心サス亦其仁ヲ神トストモカヲ天

是ライマシム其方夕千ノ元祖隆久善心ヲモツテ生所ヲ

トリタテ未々至テ家ハシレウス是偏、隆久ノ心ヒトツク

隆久寶治二年三月十五日、百六文ニテ男ヲ派ルコト偏、

熊野大権現ノ由告ト存トイヨク、三月十五日、神夏

行ナハルヘキ者ナリ、熊野之所、孝照天皇、庚寅

二五三月十五日辰一天、由水次イサナニノ為ニヨレナキ、永

和禮申、足強ヲキセ、此次食夕へ申テ和禮仕マヨレ

夕食汁鮒、鮎カマホコ、ヌタナマス、仁物コニヤク、酒ヒテ鯛、花、列、テ

宇治丸香物、御酒ニ返看、生カキ、ニイタケ、菓子西条柿、茶、

熊野権現講人、神代卷、皇則隆宗、兩人斗、圖ノ下別

お海、後、後、二ウメ、酒サカナ色、成ノ下別、由ラレ

一、十日、癸、世、白、天、齋、上、取、御、禮、理、入、刺、於、合、百、拾、七、名、之、斗

カヤノ入、刺、三、尺、十、ワ、ニ、シ、メ、テ、古、百、八、拾、五、名、以、茶、斗、百、六、名、大、斗

斗、地、有、之、年、ヲ、二、口、合、三、百、計、拾、石、八、斗、神、大、工、彦、九、郎

山城へ、毛、千、五、系、由、申、身、山城、足、神、大、禮、候、マ、ツ、カ、ヤ、レ、申

山城、様、姫、ア、レ、聖、護、院、ヨリ、御、礼、申、身、山城、様、姫

又申す可成由申多し追分不陸宗重別新勢神
院院夕不齋場所宜宮ニテ高キヤマテ山居申ニイ云モ
クタヒレマド陸宗重別カツテ承平申サレ則ハ緒ヤス人
云云七三ヨウハ重別山城勝子居中常ニキタテ表ハツテ系
今日山客旅トテテ 晤大上ル山庄、身ハ振舞夕ハマヨレ
重別モヨシヨシメサ在月十二カニ儀ナレタム
重別カ城別カ目ノイ口ニテ在表上ヒツタテマイル山城モ
其儀ニ及系、未中刻ヨリ申下別ニ儀トル

一 神龍院ト新勢ト暮見地新勢勝今一表在申ヨリ
不堂仕ル々交ハ一月勝ト本不津院院ニ新勢、セイ月ヨキ
今度ハ盤中ニイキ石ナク新勢カタレタ由本不月コワキヨレ

後小松院由宇延宝甲寅二年二百七拾六年戌

應永元年六月朔日ヨリ廿五日迄

江原大亮

從五位上

大中臣定師苗

一 朔日^辛 雨天場上所 主君所社祭祝定好勝也神人曰人

一 年ノ上刻 祭祭^分ニテ 宗源定好

一 九條極ノ由本下百系氣色悪委トテ定好由記九系極

一 系古交權少補ニ申^定帰由本下系以通^ルナ

一 上賀茂本元直由礼ニ系 鮎亦由是上私^ト也ツ持系

一 二日壬 雨天忌崎村浮比知^ル亦^ル天^ノ宮ウツ^ル也

一月七日 儀及昔尸平列 巾本取尸上祝式人神人古人之集也

一 儀月祝大角注尸少備 注麻采女七日 之集方巾中付

一 松室至年巾尺舞 系竹子巾中上十八神道 原廣初おる

一 系至斗 巾取

一 三日巳晴天 神人丹後尸ト大角時先お換 呼と越

一 考方次男丹後後 家長子にお定 巾中

一 百位之人 系籠尾屋 夜夢中付別定 便古尸後

一 巾之サウ 振ヨリ 注尸私呼 系廿口汁マ下 古夕飯注ん

一 四日 甲晴天 和列之福神 之 柳原取尸十八神道 屋

系別巾本取巾上 奉ん 七日 巾川注し マら極也 中付

一 廿日 晴天 柳原取尸系 寶油 美尸注 入 明後七日 川

一 注マ古方 之 儀也 召と喚ヨリ 神多マ 古男尸注 入 美と喚

ヨリ 大角 取人 神

一 六日 雨晴天 大津四宮神 之 巾尺舞 上 鯉式本 近上 祓事

一 有 巾本取 系 巾本取 大角 角取 巾 日 之 是 儀 注 巾 尺

一 夕 巾本取 系 注 部 取 大 鯉 式 本 持 系 取 人 巾 之 巾 尺 舞 上

一 祇園 注 行ヨリ 明日 神 是 注 尸 取 人 巾 尺 舞 上 越 祓 事

一 有 取 巾 中 考 也 也 考 素 麵 十 把 鮎 入 一 桶 之 越 一 列 注 尸

年法非法与有之禁中桥正月ノ御吉書ノ炭以テ御中ニ付
手法記ト云、及任記南小式指五ノ東西之指九ノ西東
松林小子在田ヨリ五日ノ旨法振ル、お指五日間朝夕聖護
院村分由宛明系十五日午上列由本由振ル、由社泰法信
奉幣神樂系

一 十日 晴天 泰勢屋、已上列大角治了宗源年、中割、
定好十八神道兵了十八神治ノ次申見物

一 沙中ヨリ五人山ヨリ三日ニ系五人山ヨリ久クニ系由本表、
及奥列山形ノ社家ノ公事及傳奏述由記了、行由社

家修理方マテ昼時ニ考

一 十三日 戌 雨天 寛九殿由振、系治弓指挺与毛迷十節
長刀二振侍在十人、大角左門弓三挺及具二節、治麻系
女弓三挺及具二節、中弓四人、治麻左系弓二挺及具一節
中弓数人、由供聖護院ヨリ、畠中源又治十節弓十挺
津井右馬路弓十挺、法十節、為持官任記由是年、大角系
聖護院及、新勢由使者、板打寛九及、下聖護院
及、大角時元由終、由使者ニ系

一 十三日 亥 晴天 按劔室社家、永田藏了、御禮上、板系

生鱧小串生鮓色月コニヤクニノ端塩クキキス吸地大蛤肴

色々巻切セフ九肴十五色如入申中別祭終重護院ニテ

神乐店や友家片川飯水ニテヤハ重護院男如庄山院イ

夕ク山(酉)下刻山入山本一可过ニ式重護院庭一礼

一十六日丙午上刻夕立本下ヨリ重護院(例年)通津井及

留中及、使者、院康、宋女系友家、大樽、香、前、ス、凡、ノ

指、進、于、鯛、十、投、素、麵、十、把、ヲ、氣、味、日、神、事、ヲ、終、ル

品、定、本、所、お、詣、源、立、冬、右、子、及、如、例、年、山、本、所、ヲ、終、ル

振、舞、や、ん、空、ノ、後、又、素、麵、や、久、津、井、及、留、中、及、夕、飯

汁塩鴨 食指身鯉 川テ焼物マス 鮓ス 鱧カハヤキ伊勢

足大コニニイイタケワリ付ヤキ香物肴ヤキ 海苔タテ 鮓ス バイカラスミ吸物

ウツラ 袖十六冷物ハス 新アサスリ多味コ噌シ 鱧カハヤキ伊勢

申ノ下刻ニ重護院庭ニ過リ

一 熱田社家明日マ系皆中是別宋女子紙事セキス

一 十七日卯又之熱田廣瀬右系山院、氣力打紙多目才也

五人、五振又ツ、山本及ヤハ

一 津島任在社家山院井大張中臣族中臨上ニ治部及

山本所系中上ニ山本及ニ在別大膳ニ中候ス

一十八日辰雨天小室原源太史一色彦八本所小久孫ニ系
左門宋女アイサツニ本進月ノ序

一六角左門位階お海ニ系及ヨリ呼ニ系父子在ニ本系

△ 傳ニ月本所お控ル ハ明ハ皇朝ハ新祝ハ也ハ御ハ三ハ本所ハ御ハ海ハ通ハ漢
中ハ花ハ系ハ保ハ本ハ立ハケハ海ハ所ハ宿ハ本ハ控ル

一十九日記晴天大角左門今日ヨリ如監ニ上ニ本下ニ本所ニ

本如監トハ極ハ右ハ口ハ折紙ニテ法本所ハ御ハ終ハ多ハ月ハ本指ハ是ハ披

本如監麻宋女ハ本所ハ直ハ本下ハ勝也私宅ハ如監也

本如監宿ハ世將宋女ハ被ハ本

一廿日辰雨天山北井大儀見ハ系宋女ハアハイサツ仕ル

一廿一日未晴天如監ハ系及長持及ハニヤウケハ私同ハ本イ夕ニ

本被ハ系ハニヤウケハ柳系大御ハ及ハ鯉二尾多月ハニハ是ハ中次ハ多

多月拾ハ是ハ長持及ハ難ハスハ一ハ桶ハ多月ハニハ是ハ本次ハ多月ハ十ハ本

右 京大夫小右史及人長持及ハ本所ハ難ハ十利ハアハイハ十ハ糶ハ十ハ把

本如傳如監ハ右京大夫及後治麻大龜大角如監ハ本所

本所ハ儀ハ右ハ比ハ傳ハ及ハ本ハ小ハ大ハ史ハ中ハ後ハ奥ハ本ハ如ハ監ハリハウハ夕ハ

本所ハ儀ハ二ハウハ夕ハフハ右ハ京ハ大ハ史ハ本ハ大ハ角ハ如ハ監ハリハウハ夕ハ於ハ一ハ及

ノウハ夕ハイハテハ年ハノハ本ハ所ハ由ハ長ハ持ハ及ハ本ハ所ハ別ハ如ハ監ハ今ハ日

指ハ上ハケハ多ハ月ハ本ハ指ハ是ハ本ハ加ハ立ハ持ハ是ハ昧ハ本ハ婦ハ本ハ一ハ端ハ本

如房在如監五下ハシ酒壺大籠ハ小右吏部屋ハイリ屋子ノサ
 トテ皆争引テ行屋子イタシテ小右吏ハ大角如監ア子右系
 太夫ハ私ムスメ小右吏部屋ハ長移久素麵ト下長移久ハ在田
 三位友ノ由内室ノイモト冷泉友由息女今日辰上刻ニ在
 兩人キ有下割移由中下テハ由入之位友モ由笑伊勢
 海ノ底ハ待カ子ヲ做セツ。振舞キ由中長移友ニテ右系
 小右吏夕食ウコシラエ如監ハ酒ニ酔夕食イヤトテ内藏ニ母モ
 此時ニモハツレタトイフハ今日ノ事在系亦ニテ夕食ヤウモラ
 イクイ申、治アハ私ヲ召在系亦、今今日ノ振子トお終仕
 如監禮ニ系不同イタシ伊勢海、系

一 廿二日 晴天中辰辰山野大籠、由傳更多目ニ拾取由中下上
 一 廿三日 酉雨天由中下如監ニサイワクシヤク和泉守大カ指
 樽下由内室根ト曝ニ走下

一 大角派ア不系祢宜祢人何モ不沙系亦飯吸物鯉青色
 一 由中下呼ニ系明後大由ト系女如監十八神道加行ニ波中
 依ら波ニ由人、中波入系冷泉友ニモ如由ノ由中下

一 廿四日 戌甲晴天ア夕コ森為人小山田志大何一可考合抱屋
 素麵夕食汁 ハニ 十六日 子イモ 鱈 赤貝 クラチ アサフリ 黄物 イリコ コニヤク スリ山キ 鱈カハキ 鮎スシ

看マキスルノ大ニ

一 廿五日 乙 晴天冷泉及宋女如監十八神道市川波每日之社了

加行治了私多ノ祢皇神人等ノ御奉参、お詣り申也
ツリ付

一 冷泉及市持七夕飯市本下ノ系何モ参籠屋ニテ夕飯

一 市本下申ノ下割り下ノ支人曰之ハ参籠ノ宿ス

一 市本下申ノ下割り下ノ支人曰之ハ参籠ノ宿ス

一 市本下申ノ下割り下ノ支人曰之ハ参籠ノ宿ス

一 市本下申ノ下割り下ノ支人曰之ハ参籠ノ宿ス

一 市本下申ノ下割り下ノ支人曰之ハ参籠ノ宿ス

後花園院

永享 庚 二年八月朔日

治康木参

一 朔日庚午晴天場上所主君御参視定通時政祢只

人神人八人主君視式人座ツキ門召小較申主君、波ス五

人七幣、門神供上、門召ホラサム上、東四膳定通借西四膳

時政借主君奉幣、定通、詠詞、神樂、諸社、神供、奉参

午割時政参籠屋、宗源神人八人、奉参、屋、お詣り申也

無了殿、市、奉参、本所、お詣り申也、上、波、殿、お詣り申也、十、候、錦、ツムキ

亦名、本所、奉参、私時政、炭、三、投、給、也

二日辛未晴天從合標女口足舞糸鳥月貳拾是上兩人、
其後、大隅國社家項田之儀禮、上杉安錦貳拾把
上兩人之指、夕飯、糸祢宜願花結神仁
野之斗天是隆則殿格女之儀廿口汁食及、時政六
根講尺仕御在所天是修理由味何也皆務年、居、所本
所大田大明神、由講尺、少、大田神社何間、十二、
隆則三間、三間、三間、三間、三間、三間、三間、三間、
殿、
大り、海、
イモ吸物、
ハ夕禁、
少、
惣、

三日壬申雨天西之陰風、
吸、
一條、
名、
貞、

水本所大角元祖ハシレカ家カラキタ兼豊シトニ兼職
申夕右田殿ヨイ家老ハモ千人何ヨリ浦山シイモ寛ハナ
イカマクアハナニワアノ山之サイモノイハスニ水夕千四日
同時天本所志水谷殿山振舞小山田角亭お田平六
幣内并女山供ニ糸

一山科喜相ノ店ヤ仁平札書ハ糸お後ス炭十式浅月
お湯お後ス

一聖護院留中勤云ノ云是修院明後日春日藤仲
皆大振糸一管法眼時政私之人ハ思カヒリ不ノるモ

石越ノ申事ノ兩人明後日同ノ事也申是又日甲戌雨
天本所ノ糸五人明日南部聖護院糸ト糸ト十日斗
山深中語ハ為之ノ旨主様糸ハ終ノ中申ノ申
兩人毎にお話ハ申中付ん修學院関山社僧ハ足舞
糸酒也糸主様アイサツニ申ノ割ニ序

六日乙亥時天卯ノ上割聖護院時政五人糸同以
九人南部糸ト下拾八人何ノシテ紙包モ夕ス
七日丙子晴天清路回社家十八神道語ニ上ノ大角ノ緒
披秀作ノ多笑ノ不動院見舞ニ上ノ近江十情也上

百七指八五九下ノ時政五百七指八五九下ノ際別殿重
光殿お渡久谷ノ由坊伊知比田上廣瀬有口西田何モ
白银五人お渡久 亥刻ノ時

十四日癸未晴天日野殿ノ沙与ニ婚ニモ夕セ御役ニ條
振ヨリ御生大鯛一枚大支吾了ニ使余在田今日ニ夏
御所ニ看申ハ召明日御禮伺么ニ侍ト末女ニ婚イサ
酒如入天足留中ナラニヤケ辛樽モ口ニミツ余
持余吾ノ法眼ヨリ子樽モ口ニミツ余

十五日甲申晴天御所御渡流ニ條振ヨリ終末也

御供聖護院天足留中、末女使余之山城八幡ノ社家
ノ人尊上ハモ口大老ニ奉ツ上ニ披露主婚モ口或百
ノ聖護院五人ハカ使主婚余御所知福流ニ十月
尺五人余歩高少余進方八勺子割返

十六日乙酉晴天壬申、時政十八神道行見セラレ、
伊勢山末名天神社家弓之藏ノ御禮ニ上ニ披露
末女炭吹又又上ニ聖護院留中守光殿ヨリト候

大田、拜殿ニ十月足々仕役終時政祢宜到花就末割
ヨリ大田、余天足澄則殿是日御子息源家殿サケ食

嘉元七年九月廿八日、大田神主畠中重光、お後
 中年、又年々、神主モテ申、大田領之拾六石神主、
 取代、又家取、申、大田地八反、松家、モテ申、
 鳥井ノ前八反、畠中家、代、モテ申、建武甲戌元年、
 七月廿日、大田社、天下ヨリ、ヤキ拂、申、畠中重連、一合ラ、テ
 之、箱、神、躰、五、畠中、テ、カラ、申、ツク、シ、カ、タ、ク、ト
 後、光、嚴、巾、在、任、文、和、甲、午、之、年、二、月、朔、日、所、建、立、ら、
 日、六、月、廿、日、下、部、兼、敷、之、仔、丹、臣、文、之、持、ヲ、ヤ、隆、昌、
 宣、連、五、人、神、主、成、し、上、下、ソ、レ、ヨ、リ、神、主、之、又、年、々、モ、テ、申、
 則、大、田、ノ、社、繪、巻、拜、足、仕、カ、リ、ニ、ウ、ツ、シ、所、本、所、以、月、ハ、
 申、メ

栗田社 崇徳天皇

宇治ノ悪光翁
 六條ノ判官為義

右 河 勅 渡

四 至 境

東 河ノ芝下
 西 川根
 南 大炊通
 北 中河門通

右 白川 之 位 雅 光 及 ヲリ

私云
 馬場通、名湯、飲車道、マテ、今、之、義、東南、田、地、ノ、字、馬、場、湯
 下、云、現、在、有、一、石、地、以、依、テ、是、所、今、ノ、栗、田、口、一、石、地、也
 今、栗、田、口、下、云、石、ノ、故、下、地、也、
 正春祖、父、正、詮、之、手、跡、也

栗田口
 河ノ芝下
 大炊通
 中河門通

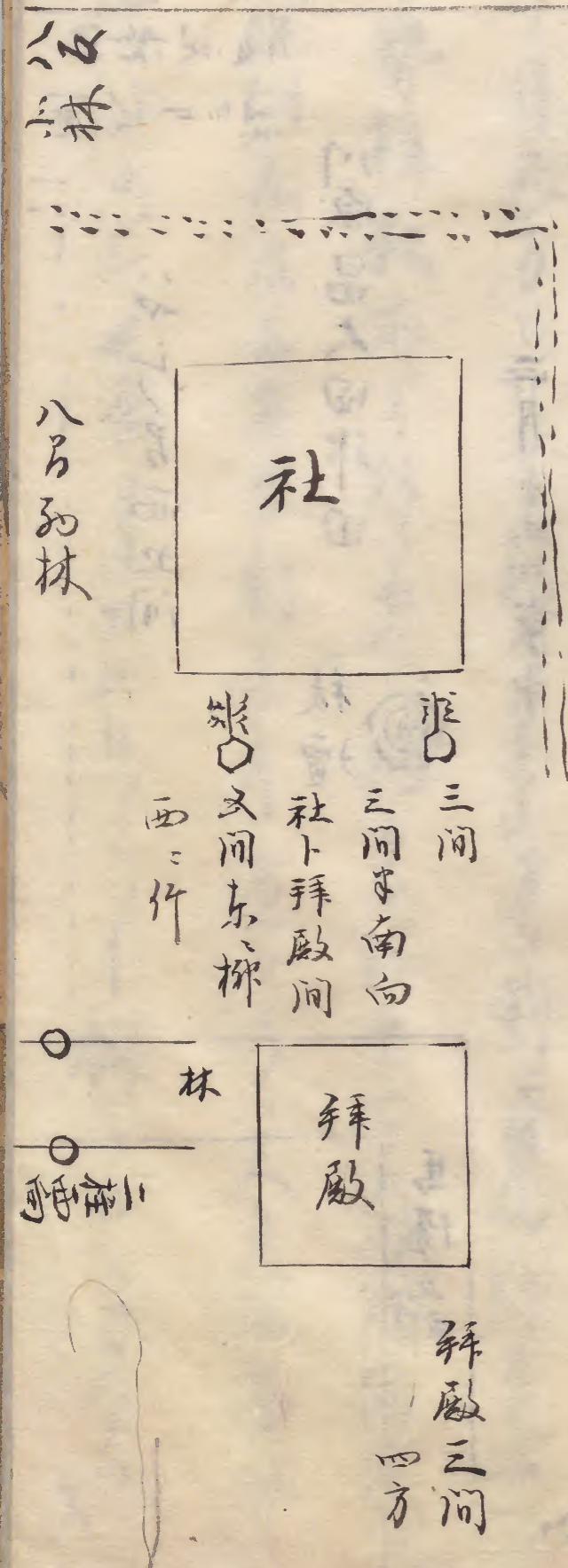
勢モ夕セ本末九月廿八日大田神主留中堂先出後
 中年六年ツ神主モテ申ハ大田領之拾六石神主
 取代五家取事申ハ元田比八反松家モテ事
 鳥井ノ前八反留中家代モテ申ハ建武甲戌元年
 七月廿日大田社天下ヨリヤキ拂中又留中堂連一人テ
 之レ箱所神躰五也留中テカラ申ツクシカクム
 後光嚴中在任文和甲午之年二月朔日所建之
 日六月廿日下部兼敷之仔所宣文之持ヤ澄留
 堂連五人神主成レ上下ソレヨリ神主六年ツモテ事
 則大田ノ社繪巻拜之仕カリニウツシ所本所ハ月
 一留メ

東

大リ、カイノ三間中

栗田口出

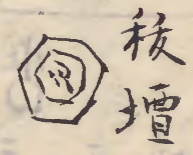
北ヨリ南武拾間林西東十五石村新石ヨリ栗田口入口テ神田
 八間東林



河内八幡社

ハヤシノ西五間

川原畠大田津田



馬場五町

三月十五日京中ヨリ方々御ハライ

ヒタニニテ啓ホコラカス

井ノ口

大井井上り八反畠中意旨御神ヨリ上下惣川系大田社

御分爲御村名白御田色黄田中私持テライノ者之斗

斗斗又斗七米ツ、明神上申海邊ヨリ東至護院

殿分二百斗指寺石八斗五年夫合、至護院殿、斗申

大田分至護院及カマノ寺ヨリ、至古殿亦為系原

ヨリ月尺方とサ々工抄を系成り割吉田御持来亦日

伊勢御持私御持作、御持作、御持作、御持作、御持作

久保村、御持作、御持作、御持作、御持作、御持作

殿ヨリ只七長谷ヨリ十五日ノマツイ候クレ、御持作

傳解武ワツテ終、其使、今日爰元為やノ口切ニテ由
彦ノ子河馬池利ハ五人送ル由本所ヨリ十八日未由ニ
札ヲ仰お傳テテ終、其使ヨリ神ノ仕仰禮ニ系十八
丁亥晴天乙ノ上割カニキニテ札由由相傳終
由北次身其者年色ノ口傳由ノコシウ正口傳午上
別書海由吳系内侍所ヨリ呼、系夕飯ツ由傳系
終申下別系女連ニ系月及イ夕シ帰
十九日戌子晴天、仰本所石川殿、振舞私ニモ
系旨サキニ系申割、隔、其日己世雨天仁和守
梯ヨリ由使由池大進由本所大進、由アイ由酒由久大角
由中表、由主權系女由、其日庚寅雨天伊勢天皇
修院同子息源苑留甲新之帝同子息新了、牧
苑就由山田由、水口彦由、西田又由、幣内由、公
大角備中同主權、空方ヨリスコク未別、夕飯由久
亥、割及晴セニサリテテ由下別マテ掛、淺之又、
惣右ノカニ、信人大角時政、其三日マツリニ、聖護院講
中、信、廿四日私申、信、廿五日苑、驛、由、由、之、由、約
未仕源、新了、系女、初、也、ト、ト、ル

廿二日辛卯晴天澄曠重有朝食之儀而夕飯
私所宿之儀部屋宋女世割停

廿三日壬辰晴天為屋於麻駿河而時政行

而本所之理之聖護院在地走世下割之私宿

聖護院在妙宿本所之敷之物之世之

廿四日癸巳晴天而本所行源經朝之而本所

而日之而下割之而後之廿五日甲午雨天牧苑於

源經朝之而直斗之而日之而書成割之而停

源經朝之而直斗之而日之而書成割之而停

大角俱時之本所ヨリ言ニ余ニ宿鴻津殿而便ラキ

俱時松系十帖之千ヲ武場モ夕也鴻津殿系聖

護院村留中朝之今日ヨリ本上之而十リ候候

而飯後重有朝之ナラレ而亦有レ未晴天

今日マテノ本上殿今日入道メサレ定光ヨリヨヒ

系ニ時政五人聖護院一夕飯系重吉法名留

中分入トナシ

別上熊野三不権現ノ藩人ノ水食ト受テ事ハ大夕レニシテ
外ラレタ飯大角石ノ厨ニテ一権ニテ振舞ハキ呼ニ余夕
飯大角石ニテシト

一三日差カニシツラノ水ノ地ニツク水ノ井桶ノ水ニテ在所ノ百姓トモ
年貢寺石ノ月高月五百文ノ年貢ノお場ノ道定使ハ平
中付ハ百姓ハ五百文ノ代ニ余高年ハ日媽付ハ三百拾七文
ノ、代中別ノ聖護院村何モ三百拾七文ニ水高代ノ別畠中根
次井採清死トテ之モ中付ハ月高月ニカクハ聖護院村ノ下ケ
次方ニテ付中中ノ

一四日戌雪以年呼ニ去年貢寺石ノ月高月ニ百十七人ノ定百此
其ノ納マシタ名ノ有ル

一白川村名也流右邊ノ山吹白川村槍七久々ノ人アコセガ池
ノ前ニテハカレテ聖護院村ノ田底ト名合儀ハキト足知コ
ニテケ根ノ振舞合具ノ多ク名聖護院村ノ田底ノ合以来
ハキア中流七ノ方中キルノ聖護院院後重親ノ付信
中キル何何時何ハキ夕クハハケトワノ事ハ中キル

一聖護院村ノ名於キ家ハ名田トアコセリ池ト弓拾五挺三
子成近ニテ系中百姓ノ筋サセテ聖護院ノ名モ名田ノ

若尾彦村ノ名ニテモ系中ニテモ指上提ニテテ近白

川ノ屋敷立不存中風波門敷ツキ

一 又日記 吾白川村浄土村尾彦村ニテ村一同改聖護院名

田村トラトス云田兼波云留中重親ニ尾彦村ノ方ニ

侍大角時忠水口廣春田中台次三人ニ常坂ノ方ニ侍居

テト麻定音波井隆後田中村廣瀬有直三人ニ比嘉

一 キハ山ツエノ方ニ侍居下山ニ色足ノ者神人十人山ノ方ハ

カ、ラハ子澄ツク尾彦ノ方カ、ラハ聖護院ハ太鼓打テ

比嘉ノ方カ、ラハ貝ヲ吹ハツ、何モ弓ニ指提澄二十節

一 宛テ川ニル尾彦村ノサワキ及具粟田只ノクニアマヤ子及ナク

勢ノ略中ノ比嘉ノ前ノ山中磯谷小八高カツキウニテ事ル

波井及、遠白川村ノ院ニ系ル波井騎馬ニテ官任記無

常坂ニ磯谷院言ラ、院披家足ノ門ノ成中留中

ラ、ヨリ不取モ水師聖護院ノ足跡ノ妻子女子皆在田

居、田中村ノアト上ニ右田方山ノ妻、未皇東立門妻

侍、白川村浄土村尾彦村ハ終平トシテニテ村ハ兼井

寺名也、何モ聖護院村田中村在田村、系書ノ編前講

ニテ村名合テト、コト應仁元年極月五日ノ已ノ別ハ

申ノ割也ト云フニ居リニ今村ノ弟七石ノ子孫也大角申
ホ久市本不申ト云フニ務テ弟内ニケタト云フ成ノ何モト云フ
不妻十八限リテ重護院在ノ妻子百姓在ノ妻子田中ノ妻子不
砂社ニ居リテ振舞ニタラレト申シ沃井隆後留中重親
廣津有ホ一何ト云フ妻子社ノ妻ニ重ノ申シ申シ申シ申シ
夕飯ト振舞ニ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ
振舞ノ家底先名男如百七娘九人糸籠尾クワノウ
テ夕飯ト振舞ニ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ

一 六日戌ニシテ重護院縁カ右田ノ沖積ニ由候ト云フ
午房ニ地蓮ニ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ
水口及田中及ノ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ
大振舞申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ
申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ申シ

一 廿日己晴天北平の系夜前、天是し、川は流し、川に舟あり、舟中

伊豫呼、是伊豫山本、メイ台伊豫、舟にカリ、山本

重護流、及、山本、重護院、監物、山本、別監物、山本

言伊豫監物、山本、山本、山本、所監物、伊豫、山本、山本、山本

山振、夕飯、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

一 廿六日晴天、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

別、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

一 七日雨、天、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

後、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本、山本

小澤相列ヨリ中京始始テ居任仕先祖字依良之河原
皇直伏見院中延宝二年述三百七拾七年永仁丁丑年八月二日皇直死去法名是入其子宗依

貞新之良重治跡以後伏見院延宝三年述三百七拾四年正安癸丑年霜月廿九日天足与九女

息女縁結後二條院延宝二年述三百六拾五年德治打元年天足ヲ移重護院村居任仕人

元弘未元年八月十日南都後醍醐院中延宝三年述三百六拾六年中京供奉其時字依良ヲ改之

留中直臣卜名宗新之良嫡号留中直臣直良ヨリ私述

七代重護院之住后中元重護院村在家天足一门之家

留中一门之家中元之由中傳也

一 天足及御先祖系高景夜以天足ノ氏藤家四條奠名ヨリ

六代松津國忠源部天野弼 昔所天仁己二年天野式部少輔

隆方ト天野隆正隆也近衛院中延宝三年述三百六拾七年元年六月天野隆也

勅天野三子与改改日夕之略安之ヨリ野ヲ改之天足卜名

原那有名字ト以所重護院村居任仕後護院中延宝三年述三百六拾七年寛元四年

極月八日天足隆之是重護院村ノ天足先祖也隆之隆次隆行

隆有有助田地武及七畝斗代寺石ノ所字ハ柳名伏見院延宝三年述三百六拾六年正應己酉二年

五月朔日晴天未少割俄ニ南小六間東西九間水口キヤ武及七畝

永荒卜成其池ノカサツ口ニテ六八中底ノカサシレズ其中
蓮武本生夕リ処故ニ其池ノ名蓮後醍醐院中延宝三年述三百六拾七年正和子元年

六月十二日天是ヲ改乙海井ニ成ル池ナリ田比代ニ汲井ニ下
是汲井作メト下中汲井ニ及ニ明日庚申水重ノ中ナリ

一八日庚晴天庚申水能能仙留中重政天是隆高ノ角ニ

列治麻大氣連交批筆小山田右門西八勺未上割 零下ニテ

夕飯由本下ニモ由水し極吸物カス生 鮎 秀夕 天是山吸物トツ夕

由本下カイクウラウ夕 留中カイニキ上リ根ト下ハ大氣

吸物カイカラ斗トト水重ニカイナキ吸物トし能能ハ

亭ニアハヒテ夕ト下 留中ニ下ハテ夕ト云ニハ下ト

一九日晴雨天位在社家ニ根由傳説ニ上ル別水重ノ中ニ

流後五百文先取次大氣

一幣内又亭社奉殿池供所根次等ノ水重ノ水重ノ後ニ下ト

一重復院ノ明後十日伊勢鎌ノ水重ノ水重ノ別水重ノ丹後ノ中

是一ノ案ノ中ノ水重ノ別近更ニニ案由監地ノ中ニ

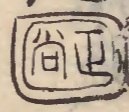
一十日戌由本下由京水重ノ水重ノ宿ノ大氣案ニ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

此日記者於麻新之悉定治彼不抄日記教多之日
象亦先祖復問々有之見故。甚雖彼必就其三
之悉定其所既如紙之通一字不遠字之文字
誤或落字有于其不分明復多了曾加予續
子孫之令う及跡略可令必就其二恥外見者之

延宝二寅年六月日

畠中新之允



正尚 橋

畠中伊豫重政嫁子

一畠中新助政次入道ノ宗長能ッリヲ射ル為人指南ス 永禄五年

二月廿三日死去 年七十九歳 妻山科村片山五助娘

一新助尚次入道ノ清ト云男子ナク古次ヲ養テ子トス古次父若林

弥助母、尚次娘ナツ腹ノ子ニ尚次一生ノ名 毎月朔日十日水可

シ長精色深カメ子孫ト云神ニ祈ル男子ナキ其ヲ歌テナリ

度長十八年正月廿三日死去 年八十三歳 妻山科村進友次系娘

下新了古次ノ清孫子後九名所ト云元和元年七月十四日死去 年三十六

法名淨照 妻山科村眞子田七島左娘

吉正子

一 清次郎吉正大男ノ力三人 宣永二年五月十日昔死去廿歳

法名源宗

吉正才

一新助吉久之大男ノ力兄吉正、不方正保四年九月廿八日死去

年三十八歳法名憲ツク書、伊地知体陳娘

法名林貞

一新之五正尚正徳五年乙未四月廿日卒七十五歳法名宗春

一新掌新助正詮正尚子善書享保十一年丙午二月十一日卒六十二歳法名

一新掌寛岸妻、祇園社中竹坊女法名智貞

一新掌新心元正久、後改典曠安永二年癸巳六月廿四日卒六十七歳法名淨隆

妻、山科片岡伊織女法名妙正

